

平成28年度 学校評価総括評価表

徳島県立徳島視覚支援学校

(1) 重点課題

視覚支援学校と聴覚支援学校が、「つながる」を合い言葉として連携・協働することにより、「幼児・児童生徒の夢と希望につながる保育・教育」を推進する。

1 学びがにつながる

視覚支援学校と聴覚支援学校で学ぶ幼児・児童生徒が、互いに認め合い、ともに高め合う保育・教育を推進することにより、豊かな心を育む。

2 未来につながる

幼稚部から小学部、中学部、高等部、高等部専攻科における、専門性の高い一貫した保育・教育により、社会に主体的に参加し、自立をめざす人を育てる。

3 地域とつながる

特別支援教育センターとして、視覚障がい等のある乳幼児から児童生徒に対する専門的な支援を全県展開するとともに、障がいのある方の交流拠点として、生涯をとおした活動を支援します。また、防災避難施設として地域の方々の安全を守ります。

4 心がつながる

思いやりと支え合いの心に満ちた人間性豊かな社会を築くため、学校と保護者、地域、関係機関・団体等が連携し、視覚障がいに関する理解の推進に努める。

(2) 重点目標

- ① 視覚障がい教育に関する研修と公開授業、OJTによる授業力の向上等により、教職員の専門性を向上します。
- ② 点字教材と触察教材の充実を図ることにより、一人一人の見え方に対応した教育を推進します。
- ③ 支援機器等教材を積極的に活用することにより、指導方法の充実を図ります。
- ④ 特別支援教育センターとしての機能を十分に発揮し、視覚障がい等のある乳幼児から児童生徒に対する専門的な支援を全県展開します。
- ⑤ 幼児・児童生徒一人一人の人権を最大限に尊重するとともに、全教職員がいじめのない学校づくりに努めます。
- ⑥ 幼児・児童生徒の発達段階をふまえたキャリア教育の推進を図ります。
- ⑦ 視覚支援学校と聴覚支援学校の幼児・児童生徒および教職員が、安心・安全な学校生活を送るための環境設定やルールづくりを推進します。
- ⑧ 聴覚支援学校との共同学習や行事への参加等により、ともに学ぶ教育の構築に向けた取り組みを推進します。
- ⑨ 教員と寄宿舎指導員による就業体験の引率をとおして、寄宿舎における生活指導の充実を図ります。
- ⑩ 防災避難施設として、地域の人々と連携した防災訓練等を行います。
- ⑪ 生涯学習の拠点として、視覚障がいのある人の活動を支援します。
- ⑫ 奉仕活動や環境・エネルギー活動、啓発活動をとおして、地域とのつながりを深めるとともに、視覚障がいに対する理解の推進を図ります。

重点課題	①学びがつながる				
	視覚支援学校と聴覚支援学校で学ぶ幼児・児童生徒が、互いに認め合い、ともに高め合う保育・教育を推進することにより、豊かな心を育む。				
重点目標	⑦視覚支援学校と聴覚支援学校の幼児・児童生徒および教職員が、安心・安全な学校生活を送るための環境設定やルールづくりを推進します。				
			中間評価		学校関係者評価
	具体的な活動計画	評価指標	評価指標による達成度 及び活動計画の実施状況	総合評価 (評定)	学校関係者の意見
					次年度への課題と 今後の改善方策
寄宿舎	<ul style="list-style-type: none"> ・聴覚支援学校と連携を図り、火災・地震・不審者対応の合同避難訓練を行ったり、防災に関する理解を深めたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・火災・地震・不審者対応の合同避難訓練を、年間各1回実施する。 ・非常食の種類や作り方等を学び、試食する。 ・防災士を招き、防災研修を年間1回以上実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・6月に地震・津波を想定した合同避難訓練を行った。また、2学期以降には、火災・不審者対応の合同避難訓練を予定している。 ・事前学習では、舎生が協力して非常食のわかめご飯を作り試食した。その後、避難経路を全員で歩き、危険と思われる場所を確認し、柱に蛍光テープを貼るなど、夜間時も安全に避難できるよう改善を図った。 ・夏季休業中に防災士を招き、寄宿舎指導員を対象にした合同研修を予定している。 		
渉外・安全課	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児・児童生徒・教職員が安全に学校生活を送るために、校舎内外の施設設備の点検を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・渉外・安全課員が担当を決めて、月に1回以上校舎内外を見回り、課会で状況を報告する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各階ごとの環境整備チェックリストを作成した。月末に各階を渉外・安全課員が見回り、チェックリストを課会で検討した。今後も継続の予定である。 		

重点課題	①学びがつながる					
	視覚支援学校と聴覚支援学校で学ぶ幼児・児童生徒が、互いに認め合い、ともに高め合う保育・教育を推進することにより、豊かな心を育む。					
重点目標	⑧聴覚支援学校との共同学習や行事への参加等により、ともに学ぶ教育の構築に向けた取り組みを推進します。					
			中間評価		学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
具体的な活動計画	評価指標	評価指標による達成度及び活動計画の実施状況	総合評価(評定)	学校関係者の意見		
幼稚園	・幼児の実態に合わせて、聴覚支援学校の幼稚部の幼児とかかわり合う保育活動を実施する。	・幼児の実態に応じて、一緒に給食を食べたり、自由あそびで同じ場所で遊んだりする。	・年少児1名が登校したときには、ランチルームで一緒に給食を食べ、近くの席の友だちを意識してかかわる様子が見られた。自由遊びでは、2回園庭に行き、同じ場所で遊んだ。			
		・自由遊びでの自然なかかわりを含め、季節の行事や日々の保育活動等での意図的なかかわりを年間10回以上実施する。	・ふれあいコーナーの五月人形の飾り付けやサツマイモの苗植え、水遊びを一緒にした。			
	・互いの保育のねらい等を知り、聴覚支援学校との保育の参観をする。	・保育に関する情報や計画、学部だより等を交換したり、教材の共有をしたりする。	・学部だよりや保育計画、幼児や教員の顔写真と名前等を交換してねらい等を共有した。			
		・幼稚部教員が、聴覚支援学校の保育を年間1回以上参観し、気づきや質問を共有する。	・聴覚支援学校の幼稚部が公開授業の時に3人の教員が交代で保育を参観した。他の教員も2学期以降、参観できるようにしたい。			
小学部	・聴覚支援学校小学部との親交や相互理解を深めるため、交流及び共同学習を実施する。	・年間6回以上の学年交流や共同学習、聴覚支援学校の行事への参加等を行う。	・交流給食を6月9日に4年生が、7月7日に2年生が実施した(計2回)。			
		・聴覚支援学校の授業参観を年間1回行う。	・授業参観については2割の教員が授業参観を行った。2学期のオープンスクールの期間にも予定している。			
		・担任児童の交流の事前指導や交流時の支援方法に生かすために、障がい種の異なる児童への指導方法や配慮事項を把握する。	・事前に自己紹介カードを両校の児童に(実態に応じて担任や保護者と相談しながら)記入してもらい、交換して児童の相互理解に役立てた。			

<p>中学部</p>	<p>・聴覚支援学校中学部の生徒と、交流及び共同学習を通して、ともに協力して活動する。</p>	<p>・教科での合同授業や給食交流、点字ブロックの日等の啓発活動等の活動を、年間3回実施する。</p>	<p>・1学期には対面式を行い、聴覚支援の生徒に伝わるよう、画用紙に名前を書く等して自己紹介をした。夏季休業中には、第2学年で理科の合同校外学習を実施する予定である。また、2学期には、給食交流と教員研修を計画している。</p>			
<p>高等部 普通科</p>	<p>・両校生徒が互いを理解し合うために見えるにくさ、聞こえにくさについて、また交通安全に関することについての発表や意見交換を行う共同学習を実施する。</p>	<p>・年間2回実施し、互いの発表や意見を聞き、気がついたことや感想をまとめ発表し合うことができる。</p>	<p>・6月に、交通安全に関するアンケートを両校で実施し、アンケート結果をお互いに交換し、お互いの障がい理解を深めることができた。また、近隣の清掃活動を両校で行う計画を立てた。悪天候のため7月には実施できなかったが、2学期に実施予定である。</p>			
<p>生徒活動課</p>	<p>・学校行事等について、聴覚支援学校との交流が進むよう計画を立て、ともに学ぶ教育の機会を設ける。</p>	<p>・第42回中国四国地区盲学校弁論大会校内選考会、文化祭、などの学校行事等において、聴覚支援学校と年2回以上の交流が実施できるよう計画する。</p>	<p>・5月11日に、第42回中国四国地区盲学校弁論大会校内選考会を実施し、聴覚支援学校の中学部・高等部の生徒を招き、交流することができた。文化祭は2学期に実施予定である。</p>			

重点課題	②未来につながる 幼稚園から小学部、中学部、高等部、高等部専攻科における、専門性の高い一貫した保育・教育により、社会に主体的に参加し、自立をめざす人を育てる。					
重点目標	① 視覚障がい教育に関する研修と公開授業、OJTによる授業力の向上等により、教職員の専門性を向上します。					
	具体的な活動計画	評価指標	中間評価		学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
			評価指標による達成度及び活動計画の実施状況	総合評価(評定)	学校関係者の意見	
教務課	・幼児・児童生徒の学力向上、教職員の授業力(専門性)向上のため、公開・研究授業について職員朝礼で校内広報する。多数の教員が参観できるよう時間割調整を行うことで、教職員の専門性向上の一助となるようにする。	・参観計画が立てられるよう職員朝礼で公開・研究授業の予定を広報したり、時間割変更を行ったりし、90%以上の教員から「2回以上の授業参観ができた」という回答を得る。	・公開・研究授業について、職員朝礼での校内広報と時間割調整を行った。今後も多数の教員が参観できるよう広報と時間割調整をする。			
研究情報課	・わかる授業をめざして視覚障がい教育の専門性に根ざした授業実践を行うため、指導方法や実践事例を幅広く共有することを目的として、グループ研修を年間7回以上実施する。	・点字・歩行・教材研究・ICTのうち、所属するグループの研修内容に関する専門性が向上したかどうかのアンケートを実施し、80%の教員から「向上した」との回答を得る。	・所属グループの希望調査を実施し、全教員が4つのグループのいずれかに所属した。 ・各グループで研修の年間計画を作成し、年9回の研修内容、担当者を決定した。1学期は計画通り年9回のうち3回研修を実施した。			

重点課題	②未来につながる 幼稚部から小学部、中学部、高等部、高等部専攻科における、専門性の高い一貫した保育・教育により、社会に主体的に参加し、自立をめざす人を育てる。					
重点目標	②点字教材と触察教材の充実を図ることにより、一人一人の見え方に対応した教育を推進します。					
	具体的な活動計画	評価指標	中間評価		学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
			評価指標による達成度及び活動計画の実施状況	総合評価(評定)	学校関係者の意見	
中学部	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の実態や学習内容に応じた点字教材や立体教材、半立体教材を作成し、授業に活かす。 	<ul style="list-style-type: none"> 「点字等教材作成」担当教員との共同制作も含め、年間15個教材を作成する。 教材を使用した後、「自作教材シート」にまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> テスト問題は、教材作成担当教員のアドバイスを受けながら、それぞれの教員が点訳を行った。また、火鉢や灰、野菜、草花等、実物を準備するとともに、社会では3個、数学では11個、自立活動では2個の自作教材を作成し、授業で活用した。 			

重点課題	②未来につながる 幼稚部から小学部、中学部、高等部、高等部専攻科における、専門性の高い一貫した保育・教育により、社会に主体的に参加し、自立をめざす人を育てる。					
重点目標	③支援機器等教材を積極的に活用することにより、指導方法の充実を図ります。					
	具体的な活動計画	評価指標	中間評価		学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
			評価指標による達成度及び活動計画の実施状況	総合評価(評定)	学校関係者の意見	
高等部職業学科	<ul style="list-style-type: none"> 生徒一人一人の視力の状態に適した環境で学習をすすめるため、必要に応じて積極的にICTを活用した授業を実践する。 	<ul style="list-style-type: none"> ICTを活用した生徒へのアンケートで、75%以上の生徒が学習しやすかったと評価する。 	<ul style="list-style-type: none"> ICTを活用することで、見やすさが向上すると思われる生徒への取り組みを続けている。 			
研究・情報課	<ul style="list-style-type: none"> 支援機器等教材を効果的に活用した指導方法の充実をめざし、支援機器等教材を活用した公開・研究授業を延べ4回以上計画・実施するよう呼びかける。 	<ul style="list-style-type: none"> 全公開・研究授業のうち4授業以上で支援機器等教材を活用した指導案が提示される。 公開・研究授業を80%の教員が参観し、コメントシートに支援機器等教材の活用について意見交換を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 公開・研究授業の実施者と実施時期の年間計画を作成した。 1学期は計画通り支援機器等教材を活用した公開授業が1回実施され、参観した教員はコメントシートにより支援機器等教材の活用方法等について意見交換を行った。 			

重点課題	②未来につながる 幼稚部から小学部、中学部、高等部、高等部専攻科における、専門性の高い一貫した保育・教育により、社会に主体的に参加し、自立をめざす人を育てる。					
重点目標	⑥幼児・児童生徒の発達段階をふまえたキャリア教育の推進を図ります。					
	具体的な活動計画	評価指標	中間評価		学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
			評価指標による達成度及び活動計画の実施状況	総合評価(評定)	学校関係者の意見	
高等部 職業学科	・職業人として必要なスキルを身につけられるよう、治療院や病院でのキャリア実習を計画・実践する。	・職業学科「個別のキャリア教育学習プログラム」を活用し、職業人として必要なスキルについて1学期に教員が評価する。2学期の実習後に再評価し、すべての生徒の評価が上昇する。	・1学期の評価が終了し、教員間の共通理解ができた。生徒個々の評価が低い項目について、特に重点的に指導を行っている。			
人権・キャリア教育課	・幼稚部から高等部におけるキャリア教育年間計画を教職員の共通理解のもとに作成・推進し、勤労観や職業観を育み、本人や保護者の希望がかなえられる進路実現をめざす。	・幼稚部・小学部は、勤労観の育成のため、家庭の協力を得て、チャレンジウィークが実施できるよう方法を確認する。90%以上の実施率を得る。 ・中学部は、進路希望調査の実施と併せて、生徒全員が仕事調べや職場見学を行う。 ・普通科は、一人1回以上の事業所見学か就業体験を実施する。 ・専攻科は、1年生は校内実習見学、2年生は治療院見学、3年生は治療院見学(実習を含む)を実施する。事後、生徒にアンケートを実行し、満足度80%以上を得る。	・夏休みに実施予定である。 ・進路希望調査を実施し、生徒の希望を把握したので、今後の仕事調べや職場見学につなげていく。 ・現時点で1名の生徒が就業体験を実施した。 ・1,2年生の実習及び見学は、夏季休業以降の実施を予定している。 ・3年生の治療院見学(実習を含む)は、アンケートにより100%の満足度を得た。			

重点課題	②未来につながる 幼稚部から小学部, 中学部, 高等部, 高等部専攻科における, 専門性の高い一貫した保育・教育により, 社会に主体的に参加し, 自立をめざす人を育てる。					
重点目標	⑨教員と寄宿舎指導員による就業体験の引率をとおして, 寄宿舎における生活指導の充実を図ります。					
			中間評価		学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
具体的な活動計画	評価指標	評価指標による達成度及び活動計画の実施状況	総合評価(評定)	学校関係者の意見		
寄宿舎	・学校と連携した就業体験の引率をとおして, 舎生の実態を把握し, 一人一人に応じた生活指導を行う。	・就業体験の引率の前後には, 学級担任と各1回以上の情報交換を行い, 共通理解を図る。	・6月末に, 高3生の就業体験の引率を行った。事前に, 学級担任と3回話し合いの機会を持った。2学期は, 9月にある高2生の就業体験や専攻科の校外臨床実習への引率を予定している。			
		・就業体験後は, 共通理解した内容を, 寄宿舎指導員全体で話し合い, 生活面での課題を見つけ支援につなげる。	・巡回指導中は舎生の作業に取り組む態度等に特に気をつけて見学した。就業体験後は, 学級担任と, 就業体験先や学校での評価等について確認し, 寄宿舎職員会議で報告を行い共通理解を図った。今後は, 生活面での課題や長所を拾い出し, 寄宿舎での生活支援につなげる予定である。			
		・舎生の実態に応じて, 年間1回以上自立支援室を利用する。	・自立支援室の利用は年度内に行う予定である。			

重点課題	③地域とつながる 特別支援教育センターとして、視覚障がい等のある幼児・児童生徒に対する専門的な支援を全県展開するとともに、障がいのある方の交流拠点として、生涯をとおした活動を支援する。また、防災避難施設として地域の方々の安全を守る。				
重点目標	④特別支援教育センターとしての機能を十分に発揮し、視覚障がい等のある乳幼児から児童生徒に対する専門的な支援を全県展開します。				
具体的な活動計画	評価指標	中間評価		学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
		評価指標による達成度及び活動計画の実施状況	総合評価(評定)	学校関係者の意見	
サポート課	・教育、医療、保健福祉、療育等の各機関との連携を密にし、教育相談や通級指導教室のニーズを掘り起こす。	・教員研修の機会に5回以上チラシの配布を行う。	・コーディネーター研修や特別支援学級研修で5回チラシの配布を行った。		
	・地域の学校において行われる、視覚障がい児の教育や視覚障がい理解に関する学習を支援する。	・県内全域の新生児科や小児科のある病院、保健師所属部署、療育機関等を30カ所以上訪問して、本校のセンター的機能について説明する。 ・地域の教員に向けての視覚障がい教育や視覚障がい理解啓発に関する研修を4回以上行う。 ・視覚障がい理解に関する学習の支援を5回以上行う。	・健診の支援に出向いた際に6カ所の保健師にチラシを配付した。 病院への訪問は、夏期休業中に行う予定である。 ・夏期休業中に当課担当地域研修会を5回実施する予定である。 ・視覚障がい理解に関する学習の支援を1学期に1回実施した。		

重点課題	③地域とつながる 特別支援教育センターとして、視覚障がい等のある幼児・児童生徒に対する専門的な支援を全県展開するとともに、障がいのある方の交流拠点として、生涯をととした活動を支援する。また、防災避難施設として地域の方々の安全を守る。				
重点目標	⑩防災避難施設として、地域の人々と連携した防災訓練等を行います。				
具体的な活動計画	評価指標	中間評価		学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
		評価指標による達成度及び活動計画の実施状況	総合評価(評定)	学校関係者の意見	
渉外・安全課	<ul style="list-style-type: none"> 地域の防災避難施設としての役割を果たすため、地域住民や聴覚支援学校と連携した防災訓練を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の自主防災組織の担当者と計画を立て、防災訓練を実施する。 地域住民や各校の幼児・児童生徒が主体的に取り組めるゲーム等を行う。 中・高等部の半数以上の生徒が参加する。 	<ul style="list-style-type: none"> 5月25日に、防災センターの方からクロスロードのレクチャーを受け、30日に地域の方と話し合いの場を設けた。それをもとに、視覚聴覚の防災担当が話し合い、地域との防災訓練についての、タイムスケジュールや内容について検討した。7月11日に、再度地域の方との話し合いをし、8月の実施になる予定である。 		

重点課題	③地域とつながる 特別支援教育センターとして、視覚障がい等のある幼児・児童生徒に対する専門的な支援を全県展開するとともに、障がいのある方の交流拠点として、生涯をととした活動を支援する。また、防災避難施設として地域の方々の安全を守る。				
重点目標	⑪生涯学習の拠点として、視覚障がいのある人の活動を支援します。				
具体的な活動計画	評価指標	中間評価		学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
		評価指標による達成度及び活動計画の実施状況	総合評価(評定)	学校関係者の意見	
教務課	<ul style="list-style-type: none"> 視覚障がいのある人の学習の場である本校の教育活動の理解啓発を目的に行うオープンスクールについて、より広く広報をする。 	<ul style="list-style-type: none"> オープンスクールに関する広報箇所を新規開拓し、5カ所以上増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援コーディネータ研修会及び弱視学級担任者研修会、徳島ロービジョンネットワーク定例会の計3カ所でオープンスクールの広報をおこなった。 		

重点課題	④心がつながる 思いやりと支え合いの心に満ちた人間性豊かな社会を築くため、学校と保護者、地域、関係機関・団体等が連携し、視覚障がいに関する理解の推進に努める。					
重点目標	⑤幼児・児童生徒一人一人の人権を最大限に尊重するとともに、全教職員がいじめのない学校づくりに努めます。					
	具体的な活動計画	評価指標	中間評価		学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度への課題と 今後の改善方策
			評価指標による達成度 及び活動計画の実施状況	総合評価 (評定)		
生徒 活動 課	・いじめのない学校づくりに向け、外部から講師を招聘し、全教職員を対象としていじめ防止の研修を実施する。	・実施後のアンケートにおいて、教職員の「いじめ防止の意識が向上した」という回答を70%以上得る。	・実施後のアンケートにおいて、教職員の「いじめ防止の意識が向上した」という回答を90%得ることができた。			
	・全教職員でいじめ防止に取り組むとともに、いじめの事案の発生については、早期発見と早期対応を行う。	・いじめの事案の発生をとらえたときには、できるだけ早く事態を把握するとともに、生徒指導委員会等を通して解決に努める。	・今年度7月5日現在のところ、いじめの事案は発生していないが、引き続き、いじめのない学校づくりに努めたい。			
	・いじめや犯罪に巻き込まれないために、在学中のみならず、卒業後も役に立つ知識が身につくよう、専門家を招き、各安全教室を3回開催する。	・外部講師を招いて、携帯スマホ安全教室、交通安全教室、交通安全教室、薬物乱用防止教室を開催する。	・6月10日に交通安全教室、6月24日に薬物乱用防止教室、7月7日に携帯スマホ安全教室を開催した。			
人権・ キャリア 教育課	・職員研修を企画・実施し、人権意識の向上と、授業の充実を図る。	・職員を対象とした「合理的配慮」の研修を実施し、80%以上の満足度を得る。	・「合理的配慮」の研修は、11月に実施予定である。			
	・合理的配慮を明記した指導案を作成し、授業を展開するよう呼びかける。	・校内で実施される公開授業または研究授業の80%以上の指導案に合理的配慮を明記している。	・現時点で実施された授業の指導案すべてに合理的配慮が明記されている。			

重点課題	④心がつながる 思いやりと支え合いの心に満ちた人間性豊かな社会を築くため、学校と保護者、地域、関係機関・団体等が連携し、視覚障がいに関する理解の推進に努める。					
重点目標	⑫奉仕活動や環境・エネルギー活動、啓発活動をととして、地域とのつながりを深めるとともに、視覚障がいに対する理解の推進を図ります。					
	具体的な活動計画	評価指標	中間評価 評価指標による達成度 及び活動計画の実施状況		学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度への課題と 今後の改善方策
			総合評価 (評定)			
小学部	・地域の商店に「点字ブロックの日」の啓発チラシ付きのティッシュを置いてもらえるよう依頼に行く。	・5店舗以上の地域の商店に依頼する。 ・数日後、各商店へティッシュを置いてもらったお礼に行く。 ・チラシ入りのティッシュを120個以上作る。	・2学期に実施予定。			
高等部普通科	・交通安全や視覚障がいへの理解に関する啓発パネルを作成し、城南高校の文化祭において展示する等の理解啓発活動を行う。	・A1サイズの理解啓発パネルを1人1枚以上作成し、その内容について説明することができる。	・どのようなパネルを作成したらよいか話し合い、分担してパネルを作成している。1学期終業式までにパネルを完成させ、9月3日の城南祭に向けて、夏休みの登校日に、パネルの説明の練習を行う予定である。			
高等部職業学科	・本校生徒が、臨床体験を通して地域住民とのふれあいの中で相互理解を深める。	・アンケートで75%以上の地域の方が視覚支援学校の理解が深まったと回答する。	・2学期に実施予定。			